

第15号
2006.1.20

れんめい

発行 日本歯科技工士連盟
東京都新宿区市谷左内町21-5
日本歯科技工士会館内
発行人 奥村厚史
編集 日本歯科技工士連盟
発行日 平成18年1月20日(金)

改革の流れを適確に掴み適切な対応を

日本歯科技工士連盟
会長 中西茂昭



会員ならびにご家族の皆様
明けましておめでとうござい
ます。

昨年、歯科技工士法制定
ならびに日本歯科技工士
会創立五十周年の式典を、
天皇皇后両陛下ご臨席の
もと、会員の皆様と共くこ
がで、誠に意義深い年と
なりました。

本年は、次なる半世紀に
向け、歯科技工士という掛
け替えのない医療専門職で
構成する唯一の全国政治団
体として、山積する懸案事
件

項の改善・改正に全力で取
り組みたいと存じます。

日本は今大幅な財政赤字
と急速な少子高齢化により、
行財政改革構造改革等様々
な仕組みの見直しを余儀な
くされておられ、そのような
中、私たちの経済に大きく
かわる医療制度改革も進
められようとしています。

政府は国民皆保険制度を
堅持する目的で、高齢者医
療制度の新設等を検討する
と同時に社会保障費圧縮の
ため、診療報酬の過去最大
幅でのマイナス改定も行お
うとしています。

このような医療経済縮小
の激甚さが、国民や医療技
術者などの弱者に転換され
ることがあつてはならない
との考え方を基本におき、
本連盟は今後の政治活動を
進めていかななくてはなり
ません。

喫緊の課題である歯科技
工経済基盤の確立のための
制度改革は、医療経済の縮
小傾向の中にあつても、新
たな財源を必要とせず実施
できるものであります。

国民が支払う歯科技工製
作料は歯科技工の担い手に
全額届く仕組みを構築しな
ければ、真の国民口腔保健
は維持できなくなります。

この点を国民の安全を守る
義務のある関係者・関係諸
機関等に引き続き理解を求
めてまいります。

また歯科技工士免許が厚
生労働大臣免許となり今年
で四半世紀が経過しますが、
未だ都道府県毎に試験が実
施されており、直ちに実現
できた学説試験の統一も放
置されており、歯科技工士
の資質向上に資する施
策として、学説統一試験実
施に向け、働きかけを強め
てまいります。

先般、関西経済同友会は、
国民が医療技術の進歩の恩
恵を早く安く受けられるよ
う「混合診療」の全面解禁
が必要であるとの提言をま
とめて公表いたしました。

また同時に、情報技術の本
格導入、医療関係者の再教
育や免許更新制度の導入な
ども求めてまいります。

このような改革を求める
動きは、我々歯科技工士に
とつても関係が深く、今後
の推移を注意深く見守つて
いくと同時に、必要があれば、
医療専門職の一員として
堂々と政治の場に主張し
てまいりたいと考えており
ます。

おわりに、会員皆様なら
びにご家族の皆様のご健勝
とご多幸を心より祈念申し
上げ、年頭のご挨拶とい
たします。

同様に本部推薦により京都
府歯科技工士連盟の野々口
昭会長も受賞された。



▲表彰式での記念撮影

自由民主党大会開催される
去る一月十八日(水)、ホ
テルにおいて自由民主党
東京港区の新高輪プリンス
大会が開催され、日本歯
技工士連盟より、日本歯
科技術士連盟は例年通り
友好団体として自由民主
党本部より推薦を受け表
彰され、小泉純一郎総裁を
はじめとする自由民主党
幹部と記念撮影を行つた。
また、この表彰について
は、党協力者として

同じく本部推薦により京都
府歯科技工士連盟の野々口
昭会長も受賞された。

次の神崎武法公明党代
表、奥田碩日本経団連会長
のゲストスピーチ、声楽家
中島啓江さんによるスペシ
ヤルスピーチなどが行われ
た後、年頭演説にたった小
泉総裁は、「回復の道を歩
み始めた軌道を本格的なレ
ールに乗せたい。『保守し
たくば革新せよ』との言葉
を銘記し、新しい時代に対
応できる体制を築き上げた
い」と語った。

次いで大会アピールが採
択され、最後はペンライト
が参加者全員に手渡され、
会場照明が落とされた中、
光の演出で幕が閉じられ
た。

平成十八年一月十
二日(木)に国民の
医療福祉の向上を図
る政治活動を行なう
ことを目的として発
足した「21世紀の医
療と福祉を支える会
」。今回は、その
発足までの過程を追
いかけてみた。

平成十六年九月二
十八日(火)、本連盟中
西会長が選挙で支援を
頂いた日本放射線技師
会の熊谷和正会長から
の、国民医療の向上と
知識の伝播について意
見交換を行いたいとの
申し出により、浜松町
にある日本放射線技師
会事務所を尋ねる。

その際、熊谷会長よ
り、医療技術者の手で
国民向けの雑誌を作り
たい。医療技術者がそ
れぞれの専門性を活か
し執筆して、国民に医
療知識を持つてもらい、
医療の向上に役立てた
いとの話があった。中
西会長も趣旨に賛同し、
その後何度か実務者に
よる出版準備の会合が
重ねられた。

十二月二十四日
(金)、政治活動に関し
話がしたいとの申し出
があり、再度、中西会
長が放射線技師会事務
所を訪問。熊谷会長か
ら、中西会長の公約、
混合診療に対する歯科
技工士会の対応に賛意
があり、医療技術者が
力を合わせ、国民医療
と福祉の向上のため、
政治活動を行なう必要
があるとの意見で一致
を見た。

● 21世紀の医療と福祉を支える会 ●

設立までの経過

熊谷会長から、この
件で他の医療技術者団
体にも声をかけたい旨
打診があり、中西会長
からは、熊谷会長が中
心となって取り纏めて
欲しい旨の要請がなさ
れた。

平成十七年四月二
十八日(木)、十五時か
ら日本放射線技師会事
務所において、日本作
業療法士協会の杉原素
子会長、日本視能訓練
士協会の白井千恵会長、
日本臨床工学士会の
川崎忠行会長を交え、
政治活動に関する懇談
会が持たれた。

懇談会
は、各々の
団体が抱え
る諸問題点
等が話し合
われた上
で、業際に
係る微妙な
点もあろう
が、国民の
医療福祉の
向上という
観点から医
療技術者が
団結し、政
治活動を行
っていく必
要があると
の点で一致した。熊谷
会長からは、声をかけ
ることのできる団体が
あれば教えてほしいと
の要望も出された。

● 六月二十二日(水)
には、熊谷会長が日本
歯科技工士会館に来館、
今後の進め方について
中西会長と協議が持た
れた。

● 八月二十五日(木)
十五時から、再び五団
体の長が日本放射線技
師会事務所へ話し合
いが持たれ、五団体
により一つの政治団体
を結成することが確認
された。また、この政
治団体から、既存の議
員に頼るばかりでなく、
目的達成のため新たに
自前の議員を擁立して
いくことも確認された。
この時点で、熊谷会長
よりソーシャルワーカー
の団体にも声を掛け
てみたいとの打診があ
り、各団体とも了承し
た。

さらに次回会合は、
政治団体設立に向けた
世話人会と
いう形で、
各団体より
数名ずつ世
話人を選出
し会合を持
つことも併
せて確認さ
れた。

● 十一月十三日(火)、
赤坂プリンスホテルに
おいて、各団体との最
後の詰めが行われたが、
この場で日本視能訓練
士協会と日本臨床工學
士協会が個人参加の意
思を表明することとな
った。また、日本医療
社会事業協会の参加が
難しくなったことも明
らかとなった。

● 十二月二十八日
(水)、中西会長が日本
放射線技師会に熊谷会
長を訪問。平成十八年
一月十二日に向け最後
の詰めを行った。

以上が、政治団体21
世紀の医療と福祉を支
える会設立までの過程
である。今後この団体
は、裏面にある事業を
完遂する活動を行うこ
ととなるが、日本歯科
技工士連盟はこの団体
と力を合わせ、歯科技
工に係る諸懸案解決に
向け、政治活動を展開
していく。

政治団体

次なるステップへ

「21世紀の医療と福祉を支える会」設立される!!

本年一月十二日(木)東京千代田区の赤坂プリンスホテルにおいて、作業療法士、診療放射線技師、歯科技師が中心となり政治団体「21世紀の医療と福祉を支える会」が設立され、第一回総会において日本放射線技師会会長である熊谷和正氏が会長に就任された。

前回の選挙を無念と捉える会員もいるが、確実に次につながる結果を残した我々歯科技士連盟の決断と実行が間違っていないことが、今回参加された各団体の代表者の言葉から確信することができた。

引き続き行われた設立祝賀会では、他団体の参加者も含め約三百名が集い、来賓祝辞に自民党政務調査会長・中川秀直先生、前文部科学大臣・中山成彬先生、内閣官房副長官・鈴木政二先生から、医療福祉専門職が声を上げることの重要性が述べられ「国民が最高の医療を受けることのできる医療福祉政策に貢献してもらいたい」との激励の言葉を頂いた。

他団体からは、日本放射線技師会、日本作業療法士協会、日本臨床工学技士会からそれぞれ、次期参議院議員選挙組織内擁立候補予定者として本会会長を推薦し、支援していくとのご挨拶をいただき、また、日本視能訓練士協会からも同様の言葉と共に祝意の花飾りなどをいただきました。



医療技術者が力を合せ中西さんを支援して欲しいと中山前文科相



祝辞を述べる中川秀直自民党政調会長



参院で中西さんと汗を流したいと鈴木官房副長官



定者として本会会長を推薦し、支援していくとのご挨拶をいただき、また、日本視能訓練士協会からも同様の言葉と共に祝意の花飾りなどをいただきました。

組織内候補として推薦された支える会中西副会長



支援者から激励の花束を受ける



設立趣旨の説明を行う熊谷和正会長

祝賀会での会長挨拶



医療・福祉専門職の声を国政に届けたい



「21世紀の医療と福祉を支える会」設立の趣旨と事業

この度、作業療法士、歯科技工士、診療放射線技師が中心になり、医療福祉専門職能（医師、歯科医師、薬剤師、看護師を除く）が集結した政治団体「21世紀の医療と福祉を支える会」を設立することになりました。

現在わが国の医療福祉政策には、政治家を輩出している四師会が協力に関与しています。しかし一部の職種だけでは国民全体の医療福祉の提供は困難です。国民はもとより医療福祉業務に関与する多くの専門職能が関係して、初めてバランスの取れた政策が実現するものと考えます。

- 1) 医療の安全確保については一部の専門職能に責任が集中しています。この状況が安全確保を阻害する側面があります。この偏りを打開し適切な責任配分を実現すること、つまり真のチーム医療を実現することで医療安全確保は大きく改善されるものと考えます。
2) 医療経済の破綻が懸念されています。現在医療費の圧縮に眼が向いていて、極めて厳しい単純な医療費削減策がとられようとしています。
3) グローバルな視点では高度で普及できる医療技術はいまや「国際商品」の一つであるとの考え方があります。

21世紀の医療と福祉を支える会役員名簿 (50音順)

Table with 3 columns: Position, Name, and Profession. Includes roles like 会長 (熊谷和正), 副会長 (伊藤宰), 理事 (杉井伸行), etc.

21世紀の医療と福祉を支える会 設立祝賀会次第

Table of the inauguration ceremony schedule, including items like 開会の辞 (18:02), 会長挨拶 (18:05), 来賓祝辞 (18:10), etc.

会の発展を祈って各部会代表による鏡開き



21世紀の医療と福祉を支える会 設立祝賀



乾杯の発声は臨床工学技士会川崎会長

にぎわう会場

